

「人と地球がともに豊かになる社会」

を実現することです。



人と地球がともに豊かになる社会をめざして

&EARTH



都市に豊かさと潤いを

三井不動産

三井不動産 アンドアース

検索 



三井不動産グループの

「街づくり」

って何ですか？



「人と地球がともに豊かになる社会」

を実現することです。

私たち三井不動産グループは、「&EARTH」マークに象徴される「共生・共存」「多様な価値観の連繋」の理念のもと、社会・経済の発展と地球環境の保全に貢献したいと考えています。

グループ・ビジョンに掲げた「&EARTH」は、私たちの街づくりが常に地球とともにあり、「人と地球がともに豊かになる社会」をめざしていることを表しています。そうした社会の実現が、総合ディベロッパーとしての私たちのCSRなのです。

人と地球がともに豊かになる社会をめざして

&EARTH

目次

&History	三井不動産グループはどんな「街づくり」をしてきたのですか？	3
&Smart	なぜ三井不動産グループが「地域エネルギーネットワーク」づくりに取り組むのですか？	11
&Nihonbashi	なぜ三井不動産グループが「福徳神社」の社殿再建に協力しているのですか？	13
&Forest	なぜ三井不動産グループが「北海道の森」を育てているのですか？	15
&Society	なぜ三井不動産グループが「復興支援ランチ」を企画したのですか？	17
&People	なぜ三井不動産グループが「ママにやさしい」サービスを考えたのですか？	19
	三井不動産グループの社会・環境への取り組み 2014年度 活動ダイジェスト	21

三井不動産グループのステートメント・ビジョン・ミッション

グループ・ステートメントの「都市に豊かさと潤いを」、またグループ・ビジョンに掲げた「&EARTH」など、三井不動産グループの「ステートメント・ビジョン・ミッション」が、経営・街づくりの一貫した指針となっています。

Group Statement

都市に豊かさと潤いを

Group Vision ～私たちはどうありたいか～

① 「&EARTH」マークの理念

私たちは、「&EARTH」マークに象徴される「共生・共存」「多様な価値観の連繋」の理念のもと、社会・経済の発展と地球環境の保全に貢献します。

～「&EARTH」掲げて、人と地球がともに豊かになる社会をめざします。

② 進化と価値創造

私たちは、不動産ビジネスを進化させることにより、人々に「新しい時代の夢と感動」をもたらします。

～多様な「知」とりいれ融合させることにより、国内外で新たな価値を創造します。

～社会環境・市場構造などの変化と、そのグローバルな潮流を積極的にとらえます。

③ 成長性と収益性に富んだ三井不動産グループ

私たちは、グループ総体の力を公正にいかんなく発揮することによって、「成長性と収益性に富んだ三井不動産グループ」を実現します。

Group Mission ～私たちに今求められていること～

① ビジネスと暮らしに関するソリューションとサービスの提供

- 豊かさと潤いをもたらす、安全・安心で魅力にあふれる空間とソフト、サービスを提供して、街の価値を最大化する。
- 多彩で革新的なソリューションを提供して、不動産投資市場の成長に貢献する。

② グローバルな視野で顧客のパートナーへ

- 顧客をビジネスの創造ならびに進化・発展の基盤と考える。
- 顧客が真に求めているものを多面的に把握し、グループの総力で提案・実現する。
- 顧客のパートナーとして、高い評価を獲得し続け、ブランド価値を高める。

③ 企業価値の向上

- 持続的な利益成長を図るとともに、不断のイノベーションを行うことにより企業価値を向上させる。
- 経営資源の最適活用ならびに効率経営を追求する。
- 常にリスクに対して適正なマネジメントを行う。

④ 個の力を高め結集してグループの力へ

- 多彩な人材、多様な価値観を融合し、パイオニア精神に満ちた獨創性を育む。
- 個々人がプロフェッショナルな知識・能力を磨き、互いに共有して、付加価値創造力を高める。
- 企業倫理と規律、コンプライアンスについて常に高い意識を持って行動する。



三井不動産グループは
どんな「街づくり」をしてきたのですか？



時代の変化を先取りした価値創造で 常に世の中に貢献してきました。



今から300年以上前の「越後屋」創業の精神を受け継ぐ三井不動産グループ。その歩みは、時代の変化を先取りした「価値創造」の歴史です。社会が直面する課題への挑戦。新しいライフスタイルや文化の提供。そうした街づくりの中で、私たちは、歴史・伝統との融合や、環境との共生といった高い次元での価値創造に取り組んできました。



江戸時代の
日本橋「越後屋」

「進取の気性」と「顧客志向」 ～三井高利「越後屋」創業～

今から約340年前、三井高利が江戸日本橋に呉服店「越後屋」を創業。「現金安売り掛け値なし」という画期的な商法で飛躍的に発展しました。そうした「進取の気性」と「顧客志向」を三井不動産グループは受け継いでいます。「越後屋」はその後、事業の幅を広げ「三井合名会社」となりました。



創始者 三井高利



創立当時の社内の様子



三井不動産創立

1909年に設立された三井合名会社の所有不動産を管理する「不動産課」が分離独立し、1941年、三井不動産が創立されました。それ以降、三井不動産は日本の新しい国づくりに貢献するという使命感とともに、街づくりを通じた世の中への貢献を続けてきました。

1673

震災の2倍の地震でも 壊れないものを ～復興のシンボル「三井本館」～

関東大震災の約6年後、1929年に「三井本館」は竣工しました。「震災の2倍の地震が来ても壊れないものを」という号令のもと、工期964日、延べ人数58万8,193人を要した大工事により誕生したモダンなオフィスビルは、「荒廃からの復興のシンボル」として人々に希望とエネルギーを与えました。現在もオフィスビルとして使われるこの建物に、私たちが目指す「安全・安心」のルーツがあります。



建築中の様子

1929



竣工当時の「三井本館」(東京都中央区)

1941

海を大地に変える ～京葉臨海地区の埋立事業～

1950年代後半、新たな住宅地や生産拠点を求める社会のニーズに応え、東京湾に面した千葉県臨海部の埋立事業に取り組みました。「土地を探すのではなく、つくる」という発想の転換で、大規模コンビナートや企業団地の形成に寄与。やがてこのエリアには新しい住宅やオフィスなども誕生し、今では多くの人々が暮らし、働き、訪れる拠点となっています。



京葉臨海地区

1950～



開発中の東京ディズニーランド

東京ディズニーランド*の オープンを支援

1960年、東京ディズニーランドの運営会社である(株)オリエンタルランドの設立に携わりました。その後、同社はウォルト・ディズニー社との交渉等を行い、1983年、ついに東京ディズニーランドがオープン。今まで国境を越えたことのなかったディズニーランドが、長い準備期間を経て、日本の地で新しいエンターテインメントの幕を開いたのです。

*事業主体：株式会社オリエンタルランド ©ディズニー

1960

Q 三井不動産グループはどんな「街づくり」をしてきたのですか？

A 時代の変化を先取りした価値創造で常に世の中に貢献してきました。



竣工当時の「霞が関ビルディング」
(東京都千代田区)

超高層が可能にした都心の広場空間 ～「霞が関ビルディング」～

ビルを超高層化することで、足元の敷地に緑豊かなオープンスペースを創出する。日本の超高層時代を切り開いた「霞が関ビルディング」は、人間性の回復や社会との関わりを視野に入れた街づくり、すなわち「都市再生」の先駆的な試みでした。1968年の竣工から半世紀近く、メンテナンスとリニューアルを繰り返しながら、常に私たちの挑戦と可能性のシンボルであり続けています。



上棟式の様子



現在も都市に潤いと安らぎをもたらしている「霞テラス」
(公開空地)



オフィスワーカーや地域との交流を図るイベントも開催
(2014年の「霞マルシェ」)

1968

1971

1980

1981

1984

1986

1995



「三田綱町パークマンション」
(東京都港区)

日本の住宅に新たな発想を ～「三田綱町パークマンション」と 「サンシティ」～

「霞が関ビルディング」に続き、わが国初の高層マンション「三田綱町パークマンション」では住環境における新たな価値創造に挑戦。また分譲マンション「サンシティ」では、「経年優化」の思想が生まれました。「木々が育つ

ように、命が集い、人と人とのつながりが増える街」を目指して、入居者などが約5万本の樹木を植樹。現在では里山のような森に育っています。この「経年優化」という思想は、現在も私たちの街づくりの中に生きています。

竣工当時の様子



森に囲まれた現在の「サンシティ」
(東京都板橋区)



グローバルへの展開 ～ホテル「ハレクラニ」～

グループとして世界各地で事業を展開する中、1984年には、米国三井不動産の子会社ハレクラニコーポレーションを設立。ハワイの老舗ホテル「ハレクラニ」を全面的に建て替えてオープンし、以後、直接運営を行っています。



現在の「ハレクラニ」
(ハワイ・オアフ島)



自然と調和した環境

「大川端リバーシティ21」
(東京都中央区)

都心の抱える課題の解決へ ～「大川端リバーシティ21」～

地価高騰や定住人口の減少など、都心の抱える問題の解決を目指した官民一体のプロジェクト「大川端リバーシティ21」。住宅・商業施設・オフィスなど多様な都市機能と豊かな自然が調和した街づくりは、ウォーターフロント開発の先進モデルとなりました。

日本初のアウトレットモール開発 ～「三井アウトレットパーク 大阪鶴見」～

1980年代にアメリカで生まれたアウトレットモールを日本で初めて実現。新しい取り組みにも果敢にチャレンジし、社会に新たな価値を提供する——そんな三井不動産グループの姿勢を体現した「三井アウトレットパーク」は、現在全国13カ所*で展開しています。

オープン当時の「ららぽーとTOKYO-BAY」
(千葉県船橋市)

新しいライフスタイルの創造 ～三井ショッピングパーク「ららぽーとTOKYO-BAY」～

「週末をショッピングセンターで過ごす」という新たなライフスタイルを生み出した「ららぽーとTOKYO-BAY」。現在では全国9カ所*に展開する「ららぽーと」は、商業施設の枠を超えた「地域コミュニティの核」として、街づくりに重要な役割を担っています。



「三井アウトレットパーク 大阪鶴見」(大阪市鶴見区)

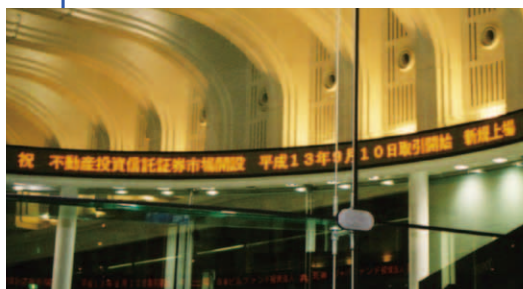
*2015年9月現在。

Q 三井不動産グループはどんな「街づくり」をしてきたのですか？

A 時代の変化を先取りした価値創造で常に世の中に貢献してきました。

日本初、不動産の証券化

バブル崩壊後、不動産業界に新たなビジネスモデルが求められる中で、三井不動産は不動産の証券化を推進しました。「日本ビルファンド投資法人」を設立して、東京証券取引所の不動産投資信託証券市場（J-REIT）へ上場。街づくりを支える資金調達への新たな道を開きました。



開発面積の約40%が緑あふれるオープンスペース

「東京ミッドタウン」
(東京都港区)

自然環境や地域社会と共生・共存する街 Diversity on the Green ～「東京ミッドタウン」～

三井不動産グループの街づくりの集大成の1つともいえるのが、2007年に開業した「東京ミッドタウン」です。旧防衛庁時代の樹木を受け継いだ広大な緑地に、オフィス・商業施設・住宅・ホテルなど多様な都市機能が融合。日本の価値・感性を伝えるデザインやアート、地域コミュニティの活性化につながる四季折々のイベントなど、人々が集う中から常に新しい何かを生み出し続けています。



2001

2004

2007

残しながら、蘇らせながら、創っていく ～日本橋再生計画～



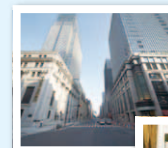
「COREDO室町1」「COREDO室町3」
(東京都中央区)

すべての道路の起点である日本橋を中心に、歴史的な建築物やさまざまな老舗が軒を連ねる伝統の街。日本橋は、三井グループ発祥の地であり、三井不動産の本拠地でもあります。この街の活性化や新たな魅力の創造に向け、官・民・地元一体で進めているのが「日本橋再生計画」です。「残しながら、蘇らせながら、創っていく」というコンセプトのもと、街区の再開発といった「モノづくり」（ハード面）と、コミュニティ活動やイベントなどの「コトづくり」（ソフト面）の両面に取り組んでいます。「COREDO日本橋」を開業した2004年から本格的にスタートした「日本橋再生計画」は、2014年秋、新たな「地域コミュニティの核」となる「福德神社」の再生をもって、第2ステージへと歩を進めました。これからも、斬新で個性的な街づくりを通じて日本橋ににぎわいを呼び、東京の国際競争力強化に貢献したいと考えています。

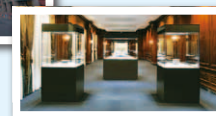
※三井不動産は、「名橋「日本橋」保存会」「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」「日本橋再生推進協議会」などの地元団体に参加して、日本橋再生に取り組んでいます。

残しながら

伝統文化や歴史的建造物、地域コミュニティなどと共生・共存し、未来へ残すことが、私たちの使命だと考えています。



重要文化財でもある「三井本館」との調和を図った景観づくり



多数の美術品を収蔵する「三井記念美術館」

蘇らせながら

歴史に学び、先人の知恵を借りることで、失われた街の機能や人々にぎわいなどを蘇らせる取り組みを行っています。



千年以上の歴史を持つ「福德神社」の社殿再建に協力



江戸時代の循環型社会に学ぶ「ECO EDO日本橋」活動

創っていく

歴史や文化を大切にしながら、未来を見据え、時代が求める「価値創造」を行っていく。日本橋再生から日本再生を目指します。



街を活性化させるさまざまなイベントを実施



外国人コンシェルジュも常駐する「日本橋案内所」

Q 三井不動産グループはどんな「街づくり」をしてきたのですか？

A 時代の変化を先取りした価値創造で常に世の中に貢献してきました。



国家的課題の解決に挑む スマートシティの実現へ ～「柏の葉スマートシティ」～

公・民・学連携のもと、最先端の街づくりに取り組んでいる「柏の葉スマートシティ」(千葉県柏市)。住宅、オフィス、商業施設、ホテル・ホール、国際交流施設などが集積する、日本初の複合開発型スマートシティです。「環境共生」「健康長寿」「新産業創造」の3つをテーマに、「世界の未来像」を具現化し、次世代につながる暮らしと社会づくりを推進。世界が直面する課題の解決を図る先進的な街づくりのモデルを、国内外に展開していきます。

環境共生都市

街全体でエネルギー利用の最適化を図ることにより、環境・エネルギー問題に応え、災害時にもライフラインを確保。世界最先端の技術で、地球環境と共生する街を実現します。



地域のエネルギーを見守る「柏の葉スマートセンター」

「ららぽーと柏の葉」屋上の太陽光パネル

「柏の葉スマートシティ」(千葉県柏市)

健康長寿都市

自治体と連携した健康事業、実証実験のモデルタウンなどの取り組みを通じて、超高齢化社会に対応した街、子どもからお年寄りまで誰もが健やかに暮らせる街を目指しています。



健康サポート拠点「街のすこやかステーション」

独自の健康増進プログラムも提供

新産業創造都市

新ビジネスや起業家を支援するインキュベーション施設をはじめ、大学・研究機関など知の拠点が集積。日本に新しい活力をもたらす新産業の芽を育て、サポートしています。



イノベーションを生み出す拠点「KOIL」(柏の葉オープンイノベーションラボ)

国際ビジネスコンテストも開催

2012

三井不動産グループが目指すスマートシティ ～3つのコンセプト～

三井不動産グループでは、「柏の葉」のほかにも、「日本橋」(東京都中央区)、「日比谷」(東京都千代田区)、「横浜」(神奈川県横浜市)などでスマートシティの取り組みを進めています。そこでは、エネルギーのスマート化はもちろんのこと、「環境共生」「安全・安心」「健康長寿」「産業振興」といった人類が直面する課題に挑戦し解決を図り、人が主役の成長し続ける街、「経年優化」の街づくりを目指しています。

1 人類が直面する課題の解決に挑戦する街

解決すべき課題: エネルギー、環境共生、安全・安心、健康長寿、産業振興など

2 人が主役(需要者視点)「賢く働く、賢く暮らす」

「Green(省エネ、環境配慮)&Resilient(強韌さ)」を実現技術が創造する価値を、顧客が実感できる街

3 複合プレミアムとタウンマネジメントにより成長し続ける街

用途の複合によるシナジーを生かし、タウンマネジメントでサステナブルに付加価値を向上



横浜スマートシティ

日本橋スマートシティ

2013



「GLP・MFLP市川塩浜」(千葉県市川市)

「MFLP八潮」(埼玉県八潮市)

企業のサプライチェーンの見直しやEコマースの拡大など、物流業界の環境変化に対応した高機能な物流施設を提供。総合ディベロッパーの強みを生かし、効率的な物流機能、地球環境配慮・BCP対策などのニーズに応えることで、新たな市場創造に挑戦しています。

先進的物流施設を展開 ～「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)」～

2015

三井不動産株式会社が「ゴールド街づくりパートナー」に ～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて～

三井不動産株式会社は、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京2020 ゴールドパートナー」契約を締結。不動産開発における「ゴールド街づくりパートナー」として日本の魅力を広く発信し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に貢献していきます。



Tokyo 2020 三井不動産

Q なぜ三井不動産グループが「地域エネルギーネットワーク」づくりに取り組むのですか？

Q 「地域エネルギーネットワーク」で何ができるのですか？

「柏の葉スマートシティ」では、街区をまたいだ地域全体で電力を効率的に活用し、省エネ・CO₂削減に貢献する仕組みを構築しています。また、大規模災害などの非常時に電力会社からの電力供給が停止しても、地域内の非常用発電機から得た電力や太陽光発電、蓄電池などの電力を融通しあうことで、事業の継続（BCP）や生活の維持（LCP）が可能です。

公道をまたいで街区間で電力融通を行うのは、「柏の葉スマートシティ」が日本初です。



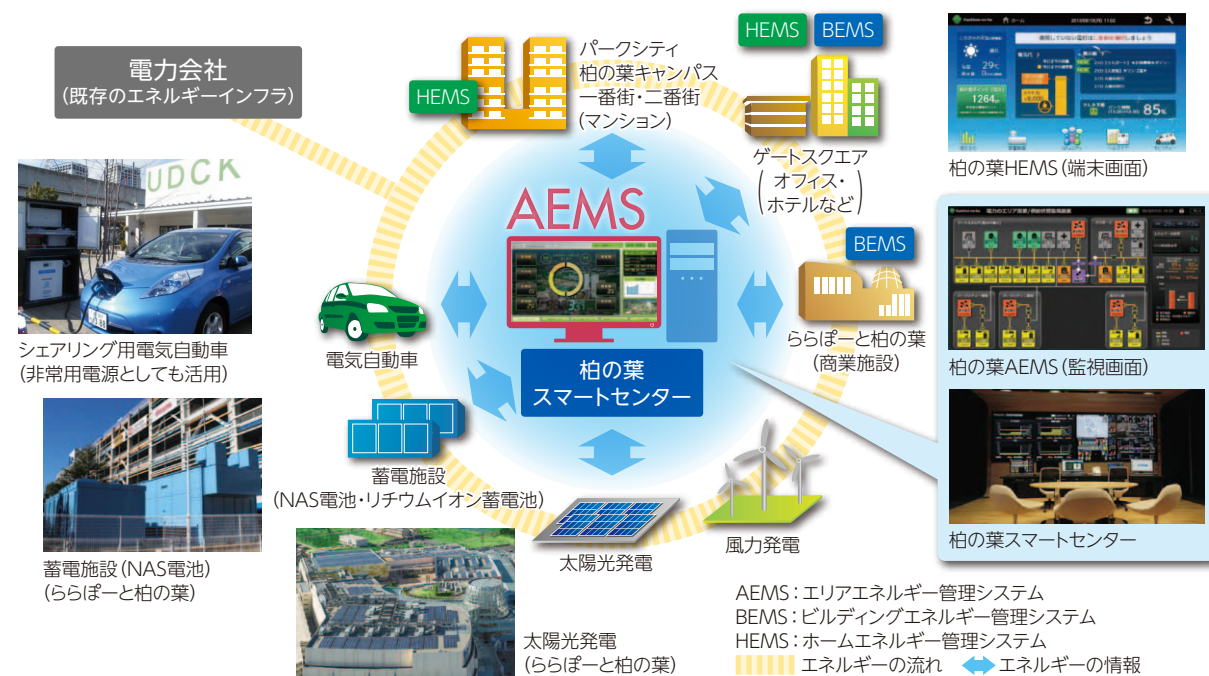
災害などにより電力会社からの電力供給が停止した場合、地域内の「ゲートスクエア」や「ららぽーと柏の葉」にある太陽光発電や蓄電池などの電力をマンション（パークシティ柏の葉キャンパス一番街・二番街）のエレベーターや共用照明などの共用設備へも供給します。

A 地球にやさしく、災害に強い街を実現するためです。

私たちは、「人と地球がともに豊かになる社会」を目指し、未来を見据えた地域エネルギーネットワークをつくることで、CO₂などの環境負荷が少なく快適で、さらに災害時には人の生命や資産を守り、いち早く安定した生活や事業が継続できる街づくりを進めています。「柏の葉スマートシティ」（千葉県柏市）での取り組みはそのための大きな一歩です。

Q どのような仕組みになっているのですか？

「ゲートスクエア」内の「柏の葉スマートセンター」に、地域全体のエネルギーを管理する「柏の葉AEMS」を設置。各施設のエネルギー管理システム（HEMS・BEMS）や太陽光発電・蓄電池などとネットワークで結んで情報を集約し、エネルギー使用状況や気象情報などに応じて、街全体で効率的な発電・蓄電・電力融通の制御を行っています。



その他の取り組み

日本橋室町電気・熱供給事業

東京都心の日本橋室町において、再開発建物内に都市ガス燃料とした大型の高効率発電機（ガスコジェネレーションシステム）を導入し、地域電気・熱供給事業を2019年から開始する計画です。高効率発電機で発電した電力を、開発区域内の施設だけでなく周辺の既存施設などへも供給することで、非常時に電力会社からの電力が停止しても、地域のBCP電力確保が可能です。また、発電時に発生する廃熱も有効活用し、地域全体での省エネ・CO₂削減を図ります。



なぜ三井不動産グループが「**福德神社**」の社殿再建に協力しているのですか？

Q 福德神社とはどんな神社ですか？

千年以上の歴史を持つといわれ、徳川家康も参詣した由緒ある神社です。しかし、40年ほど前からはビルの屋上に祀られるなど、目立たない存在になっていました。そこで三井不動産グループでは、「日本橋再生計画」の一環として福德神社の社殿再建を計画。2014年10月に竣工したのち、その名の通り福をもたらす縁起のいい神様として、いつも多くの参拝者でにぎわっています。



日本橋の五穀豊穡の神様

地域コミュニティの核へ

再建に当たって、敷地の地下1階には公共の駐輪場・ミニバイク置場を、また社殿地下2階には災害時に帰宅困難者に提供する水・食料などの備蓄倉庫を設置。さらに、隣接地と一体的に「(仮称) 福德の森」を整備する(2016年度竣工予定)など、地域コミュニティの核としての貢献を図っています。



憩いの場を提供する「(仮称) 福德の森」(完成予想イメージ)



地上

耐火性能のため社殿は実は鉄骨造



地下1階

違法駐輪対策に役立つ駐輪場



地下2階

約360m²の防災用備蓄倉庫



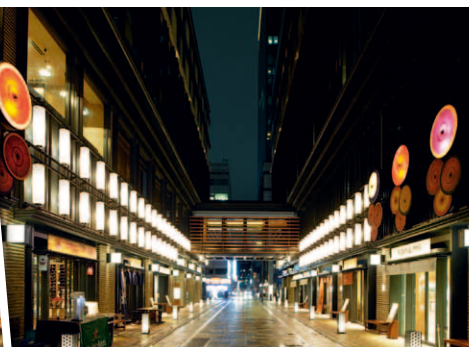
“人とともに生きる街”を日本橋に蘇らせるためです。

「残しながら、蘇らせながら、創っていく」というコンセプトのもと、官・民・地元一体で進めている「日本橋再生計画」。建物を造るだけでなく、歴史・文化や既存のコミュニティを生かした街づくりに取り組んでいます。そんな“人とともに生きる街”を目指し、地域の人々に古来親しまれてきた「福德神社」の社殿再建に協力しています。

Q 日本橋での「おもてなし」の取り組みを教えてください。

多くの人に日本橋を訪れていただけるよう、四季折々にさまざまなイベントを実施。特に、外国人観光客に日本橋や日本文化の魅力を体験してもらうための「日本橋おもてなしプロジェクト」にも力を入れています。

日本橋 桜フェスティバルのライトアップ



シーズンごとにデザインが変わる提灯が並ぶ仲通り

日本橋おもてなしプロジェクト



15か国語に対応した「QR Translator」を福德神社や店舗に設置



「日本橋案内所」には外国人コンシェルジュが常駐



外国人コンシェルジュによる「ベスト・オブ・ジャパン・グルメ・ツアー」



日本の伝統を体験する「OMOTENASHI Experience」

第三者コメント

多くの人に寄り添った神社でありたい



福德神社 宮司

真木 千明様

「日本橋再生計画」によって生まれ変わった日本橋の新名所となり、多くの人を訪れるようになりました。神社は昔から地域の暮らしに深く関わっており、人々は祭事を通じて、自然の恵みを願ったり、日々の幸せに感謝したりしていました。今後は再生された神社を通じ、日本橋という街の歴史・伝統・文化を感じてもらえればと思います。地域の方や地元オフィスワーカー、街を訪れる方々に親しんでもらえる神社として、これからも、人々に寄り添う「地域コミュニティの核」でありたいと思っています。



なぜ三井不動産グループが「北海道の森」を育てているのですか？



“終わらない森”をつくり、森の恵みを未来に残すためです。



日本の森の約4割を占める人工林。その保全のためには“人の手”が必要ですが、林業の衰退などにより、放置され荒廃した森が増えています。三井不動産グループが保有する北海道の森（約5,000ha）の6割強は人工林です。適切な管理と間伐材の利用を通じて“終わらない森”をつくり、森の恵みを未来に残すために取り組んでいます。

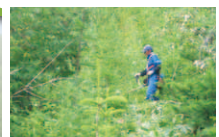
森を育てるためにどんなことをしていますか？

三井不動産グループが保有する人工林については、下刈り・つる切りや間伐などによって適切に管理するとともに、計画的な植林による森の更新も図っています。また、グループ従業員による植林研修も毎年実施しています。

適切に育った森は、多様な生物が生息する場となるとともに、二酸化炭素（CO₂）の吸収固定源となります。また、水源の涵養や土砂災害の防止など国土の保全にも貢献します。

そだてる

人工林では、間伐や計画的植林などを適宜行い、“終わらない森”をつくっています。



下刈り



従業員による植林研修



三井不動産グループ

つくる

間伐材で建築資材や什器などをつくり、住宅建設などに活用しています。

いかす

間伐材を街づくりで活かすことで、森や人を生かす持続的なサイクルをつくります。

“終わらない森”をつくるために都市部ではどんなことをしていますか？

間伐は健全な森の育成には欠かせないものですが、間引いた木をそのまま放置するのはもったいない話。三井不動産グループでは、これらの間伐材として積極的に活用しています。例えば、グループ保有林から出たトドマツの間伐材をマンションのフローリング材に。また、オフィスや店舗の内装材や家具、ノベルティグッズなどにも活用しています。

トドマツの間伐材などを利用した「スマートフローリング」

約75%

フローリング材のうち約75%にグループ保有林のトドマツを使用。

間伐材によるオフィス家具やノベルティ

マグネット

ボールペン

地下歩行空間のベンチ (札幌三井JPビルディング)

バルコニーの床と天井のサーモウッド材 (柏の葉スマートシティ ゲートスクエア ホテル&レジデンス棟)

CO₂の貯蔵にも貢献

そして、これらのフローリング材や内装材、家具等を、木材を使用しづらい都市部の大規模鉄筋コンクリート造建築物で使用し、グループ事業での水平展開により使用拡大を図っています。そうすることでCO₂の長期的かつ大量の貯蔵に貢献するとともに、国内林業の活性化や“終わらない森”づくりの促進につながっています。

社員コメント

地球環境問題を考えるきっかけに



三井不動産(株) 社会・環境推進室 東城 瑞枝

植林研修では、機械で植えることのできない苗木を社員一人ひとりが手で植えることで、木の育成にどれだけ時間と手間がかかるかを体感し、適切な管理の重要性を学び、それが社員の地球環境への意識向上につながればと考えています。また、夏休み期間には子ども向けに間伐材を使った楽器づくりのワークショップを開催し、未来を担う子どもたちが森や木に興味・関心を持つような、きっかけ作りをしています。これからも研修やイベントを通して森林保全の大切さを伝えていけるように取り組んでまいります。

Q なぜ三井不動産グループが「復興支援ランチ」を企画したのですか？

Q ランチでどんな支援ができるのですか？

三井不動産グループが管理運営するオフィスのテナント企業の皆さまなどが利用する職域食堂で、気仙沼市の水産加工品を使った「復興支援ランチ」を提供。被災地域企業の販路拡大を支援するとともに、東北のおいしさを発信しています。多くの皆さまに食べていただくことが、東北復興への貢献になるというわけです。2013年12月から2015年3月末までに5つのオフィスビルで2万食以上を販売。2014年秋にはディナーメニューの提供も開始しました。



復興ランチ
「さかなフライ4種盛り定食」



復興ランチ
「結の場丼(びんちょうまぐる)」

被災地を“食べて応援”

被災地域企業
[水産加工品販売]

三井不動産グループ
[オフィスビル管理運営]

オフィスワーカーなど
[オフィスの食堂利用]

東北復興マルシェも開催

被災地域企業などが出展して水産加工品や特産品を販売する「マルシェ」にも2013年度から取り組んでいます。2014年度は「霞が関ビルディング」(東京都千代田区)隣接の広場や日本橋室町の地下歩道などで10月に実施。企業や商品の認知度向上、東北への観光誘致を図りました。



「霞マルシェ 2014」
物販5ブース、
キッチンカー4台が出展



「日本橋室町マルシェ 2014」
物販7ブースが出展

「結の場」の取り組み

「復興支援ランチ」「東北復興マルシェ」はともに、大手企業等の経営資源を活用して被災地域企業を支援する「地域復興マッチング『結の場(ゆいのば)』」(復興庁宮城復興局主催)の取り組みです。三井不動産では2012年度から同プロジェクトに参加しています。

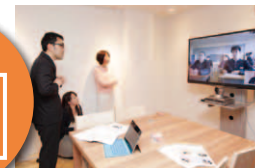
A 私たちのお客さまと被災地域企業をつなぐためです。

「東日本大震災の復興支援のために、私たちの“街づくり”の力を生かせないだろうか」。そうした思いから、「被災地域企業の商品を、三井のオフィスビルを利用する皆さんに食べてもらう」という取り組みを始めました。そのほかにも、被災地との交流拠点を日本橋に開設するなど、さまざまな形で東北復興を支援・応援しています。

Q 被災地との交流拠点とはどのような施設ですか？

継続的に東北復興を応援するための情報発信・交流拠点「わたす日本橋」を2015年3月にオープンしました。コンセプトは「南三陸町と日本橋に、人と未来に、心の架け橋を」。多くの方々に気軽に利用していただき、さまざまな思いや交流の輪を広げていきたいと考えています。

3F
わたす
ルーム



補習授業の様子

南三陸町の中学校とテレビ会議でつないで補習授業を行うほか、復興関連のイベント・ワークショップなどを実施します。



「わたす日本橋」外観

1・2F
わたす
カフェ

飲食と情報発信のフロアです。南三陸町をはじめとする東北の海の幸・山の幸を使ったメニューを提供。また、地元の特産物や観光・イベントなどの情報発信も行います。



看板メニュー「わたすランチ」

社員コメント

東北と日本橋をつなぐ心の架け橋に

社員の個人的なボランティア活動や社内のCSR研修を通じて、宮城県南三陸町など被災地の方々と交流を深める中で、「当社のリソースを活用して復興に向けた継続的な取り組みができないか」という個々の思いが結集し、「わたす日本橋」が誕生しました。

東北の魅力を発信するだけでなく、南三陸町立志津川中学校とテレビ会議で結んでNPO法人キッズドアによる放課後の補習授業を行うなど、地道な交流も実施。さらに活動を充実させ、被災地の「今」を伝え「これから」を考える場にしていきたいと思っています。



三井不動産(株)
「わたす日本橋」
プロジェクトチーム

Q なぜ三井不動産グループが「ママにやさしい」サービス考えたのですか？

Q 「ママ with ららぽーと」とはどんな取り組みですか？

2014年10月にオープンした「ららぽーと和泉」(大阪府和泉市)のコンセプトは「エリアオアシス」。地域と共生し、家族で通いたくなるショッピングセンターを実現するために、ママ社員が「子育てママ」の視点で取り組みました。親子の憩いスペース「ママ ウィズ パーク」をはじめ、ハード・ソフト両面から「子どもと一緒に快適で楽しい時間を過ごしたい」という声に応えています。

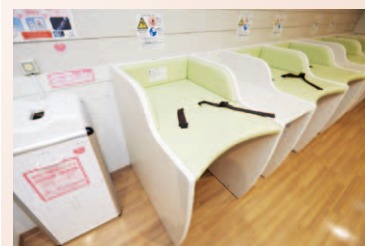


「ららぽーと和泉」

ママにやさしい工夫がいっぱい



ママ友と一緒に也能入る広めの授乳室



オムツ替え室のゴミ箱はゴミ袋いらすの密閉式



子どもが安心して遊べるキッズプレイスペース



フードコートには小上がり席や配膳サービスも



楽しい遊具を備えたポケットパークで外遊び



ベビーカーでも乗降しやすいワイド駐車スペース

A ららぽーとを“地域のオアシス”にするためです。

三井不動産グループの商業施設は、「地域コミュニティの核」でありたいと願っています。その一環として「ららぽーと和泉」で始めたのが、子育てファミリーにやさしい「ママ with ららぽーと」の取り組みです。三井不動産の「ママ社員」が中心となってプロジェクトを企画・推進。「地域のオアシス」として親しんでいただける施設を目指して、さまざまなアイデアを実現しました。

Q どんなふうにプロジェクトを進めたのですか？

自らもママである三井不動産の女性社員でプロジェクトチームを立ち上げたのが2013年の秋。それから約1年をかけて、さまざまな思いを形にしました。

「お手洗いが狭くてベビーカーで入れない」「子どもの手を引いているとフードコートで食事を運ぶのが大変」といった自分たちの経験や地元のマーケティング調査などを踏まえ、出し合ったアイデアは100以上に。グループ内外の企業との連携・協力のもとで実現した「ママ with ららぽーと」を、今後は他の商業施設にも広く展開していきます。

プロジェクトの歩み

- 2013.8 1人のママ社員が企画を提案
- 2013.11 プロジェクトチーム結成
- 2014.1~ 周辺住民へのアンケート調査
- 2014.2~ さまざまな施設の実地調査
- 2014.4~ 定例ミーティングをスタート
- 2014.10 「ららぽーと和泉」オープン

テナント企業とのコラボも

テナント企業にもご協力いただいて新たな価値創造を実現しています。

- ワコール 「ママに役立つ・優しいワークショップ」を開催
- どうとんぼり神座 栄養バランスを考えた野菜中心のオリジナルメニューを販売
- コンビニ 最新モデルのベビーカーを施設内でお買い物しながら試乗



社員コメント

ママを応援する取り組みを広げていきます



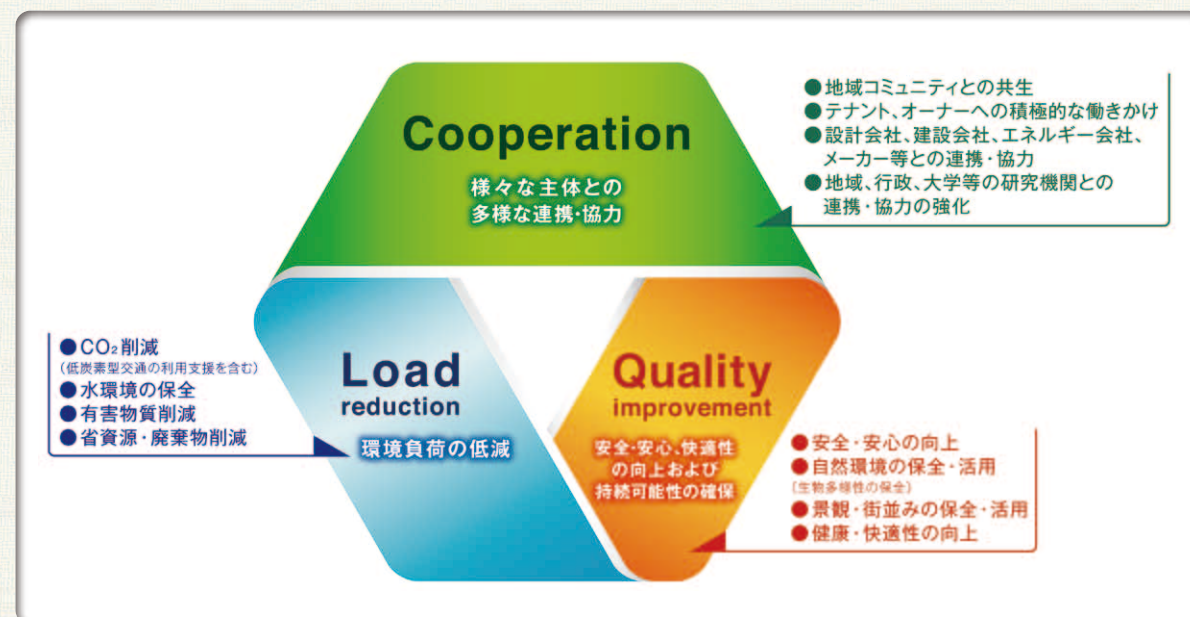
三井不動産(株) 商業施設本部 商業施設運用部 荒井 みゆき

私自身が小さな子どもを連れて、いくつもの商業施設を利用して来た経験から、「商業施設をママにとっての憩いの場にしたい」という思いで企画に携わりました。「ららぽーと和泉」のオープン以来、数多くのママ・パパから賛同・共感の声をいただいています。この「ママ with ららぽーと」は、2015年4月開業の「ららぽーと富士見」(埼玉県富士見市)でも展開し、今後マーケット特性に合わせて新規・既存の「ららぽーと」に順次導入する予定です。三井不動産グループの商業施設では、これからもさまざまな形でママやファミリーを応援していきたいと考えています。

三井不動産グループの社会・環境への取り組み 2014年度 活動ダイジェスト

環境への取り組み方針

三井不動産グループでは、「グループ環境方針」のもと「環境負荷の低減 (Load reduction)」「安全・安心、快適性の向上および持続可能性の確保 (Quality improvement)」「様々な主体との多様な連携・協力 (Cooperation)」の3分野を一体的に推進することを取り組みの方針として、環境活動を行っています。



社会貢献活動への取り組み方針

三井不動産グループでは、グループ各社・各部門での取り組みにおいて共通の基軸となる「社会貢献活動方針」を策定し、「地球環境」「地域社会」「文化・教育」「国際交流」の4つの分野を中心に活動を進めています。

三井不動産グループ「社会貢献活動方針」(2013年3月27日制定)

私たちは、グループ・ステートメント「都市に豊かさと潤いを」の理念のもと、社会・経済の持続的な発展を目指し、都市再生・街づくりを通じて社会に貢献するとともに、「豊かさと潤い」を実現する様々な活動にグローバルな視点で取り組みます。

- 1 「地球環境」「地域社会」「文化・教育」「国際交流」の4つの分野を中心に取り組みます
- 2 地域社会の方々とともに調和を図りながら取り組みを推進します
- 3 自社の持つ施設やネットワーク、人材などの資源を積極的に活用します

2014年度の主な取り組み

環境負荷低減の取り組み	CO ₂ の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● オフィスビルの東京都の「トップレベル事業所」認定 ● メガソーラー事業 ● エネルギーマネジメントシステムの開発・導入 ● 自動車からのCO₂排出抑制のためのインフラ整備
	水環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 節水 ● 雨水・中水利用 ● 雨水の地下還元
	有害物質削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃薬剤による環境負荷の低減 ● フロン類の適正処理 ● PCB廃棄物の適正な保管・管理と処理
	省資源・廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> ● リデュース・リユース・リサイクル ● 建物の長寿命化 ● 廃棄物の適正処理
品質向上の取り組み	安全・安心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要既存ビル3棟でBCP改良工事完了 ● 商業施設・戸建注文住宅の取り組み ● 全社防災訓練・帰宅困難者受け入れ訓練 ● セキュリティインフラ事業への取り組み
	自然環境の保全・活用(生物多様性の保全)	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市空間での緑の保全・創出 ● 持続可能な森林資源の調達
	景観・街並みの保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域特性を生かした景観形成
	健康・快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 戸建注文住宅の取り組みで「グッドデザイン賞」受賞
	品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業における品質管理の指針等の運用
	CS(顧客満足)の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な暮らし方を実現する空間の提供 ● お客さまアンケート等の継続的な実施
共生・連携の取り組み	地域コミュニティとの共生・連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域防災への取り組みで「災害に強い街づくり」 ● 地域活性化のためのコミュニティ支援 ● 各事業での地域清掃活動などへの参加
	お客さま・テナント等との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ● 「柏の葉スマートシティツアー」を実施 ● 「霞が関ビルディング」で地域イベントを開催
	社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 「横浜環境活動賞 実践賞」を受賞 ● 東日本大震災の被災地でCSR研修を実施 ● 官民連携で「GREEN POWER プロジェクト」を展開 ● 商業施設の「衣料支援プロジェクト」

上記取り組みの詳細やその他の取り組みは Webで公開しています。



三井不動産 社会・環境への取り組み

検索

<http://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/csr/>